

第3章 食肉販売店の仕入動向

要 約

- 食肉仕入量（推計）は、牛肉が1店当り973kg、豚肉が1,998kg、鶏肉が1,215kgである。
- 食肉の仕入構成は、豚肉が58%、牛肉が28%、鶏肉が14%である。業態別では、「百貨店」、「食肉専門店」、「農協・生協ストア」が比較的牛肉の仕入比率が高いが、「総合スーパー」、「食品スーパー」、「食肉専門店」、「農協・生協ストア」は豚肉仕入が半分以上を占めている。
- 牛肉の仕入構成をみると、「和牛肉」と「国産交雑種」の仕入が微減し、「国産乳用種」と「豪州産牛肉」が増加している。「米国産牛肉」は、「食品スーパー」を中心に仕入が増加している。仕入形態は「和牛肉」が「枝肉」「部分肉セツ」「部分肉パ^-ツ」、 「国産乳用種」、「国産交雑種」が「部分肉パ^-ツ」「部分肉セツ」が中心、「米国産牛肉」は「部分肉パ^-ツ」仕入「豪州産牛肉」は「コンシューマパック」である。
- 豚肉仕入構成は、「国産豚」が85%以上。「銘柄豚肉」と「その他国産豚肉」が横ばいである。仕入形態は、「SPF豚肉」「銘柄豚肉」が「部分肉セツ」中心、「その他国産豚肉」が「部分肉パ^-ツ」中心。「輸入豚肉」は「部分肉パ^-ツ」流通となっている。
- 鶏肉仕入は、「国産鶏肉」が96%程度、「輸入鶏肉」が4%。「輸入鶏肉」は徐々に減少している。

1. 食肉の肉種別仕入構成と仕入量（平成19年10月分）

(1) 肉種別仕入構成と仕入量

1店当り肉種別仕入量は、牛肉が973kg、豚肉が1,998kg、鶏肉が1,215kg

平成19年10月1ヶ月間の1店当り食肉仕入量は3,324kgであり、このうち牛肉が27.7%、豚肉が58.1%、鶏肉が14.2%となっている。18年10月の食肉仕入量が3,013kgであるから、19年10月の食肉仕入量は、前年比較で約10%程度増加している。

図3-1 肉種別仕入構成比(平成19年10月分)

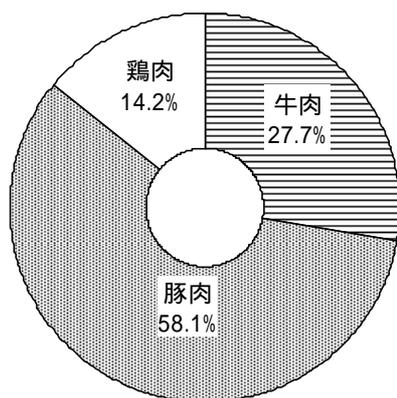


表3-1 肉種別仕入構成比

単位:店舗数、kg、%

	回答数	1店当り仕入量	構成比
【総数】	701	3,324	100.0%
牛肉	663	973	27.7%
豚肉	677	1,998	58.1%
鶏肉	273	1,215	14.2%

肉種別の回答店舗数が異なるため、肉種別仕入量を合計しても合計量と一致しない。

「総合スーパー」「食品スーパー」「食肉専門店」は豚肉仕入れ比率が高い。

百貨店を除く各業態は、豚肉の仕入れ比率が50%以上を占めている。「総合スーパー」の豚肉仕入れ比率は67.6%、「食品スーパー」は59.1%、「食肉専門店」は52.8%である。一方、「百貨店」の豚肉仕入れ比率は42.3%であり、牛肉の仕入れ比率が41.8%になっている。

牛肉の仕入れ比率は、「百貨店」のほか、「食肉専門店」が37.9%、「農協・生協ストア」が31.3%、と他の業態に比べて高くなっている。

業態別の1店当り仕入量(10月分)は、「総合スーパー」が9,560kg/店と一番多く、続いて「食品スーパー」が4,674kg/店となっている。

【経年比較調査】

経年でみると、各業態店舗ともに大きな変化は見られない。ただし、「総合スーパー」だけは仕入量が大幅に増加し、「食品スーパー」は減少している。

表 3- 2 肉種別・業態別仕入構成比と仕入量

単位：店舗数、kg、%

	回答店舗数	1店当り仕入量(kg)	牛肉	豚肉	鶏肉	
【百貨店】	H19	48	41.8	42.3	15.8	
	H18	29	49.4	36.0	14.6	
	H17	-	-	-	-	
【総合スーパー】	H19	62	19.3	67.6	13.1	
	H18	51	28.8	52.3	18.9	
	H17	-	-	-	-	
【食品スーパー】	H19	198	24.1	59.1	16.8	
	H18	165	26.1	58.8	15.1	
	H17	168	7,826	21.9	51.8	26.3
【農協・生協ストア】	H19	46	31.3	50.3	18.4	
	H18	23	1,976	31.3	55.2	13.5
	H17	49	3,354	19.5	53.2	27.4
【食肉専門店】	H19	347	37.9	52.8	9.2	
	H18	338	1,446	35.0	57.6	7.4
	H17	348	1,066	36.1	48.6	15.3

図 3- 2 肉種別・業態別仕入構成比

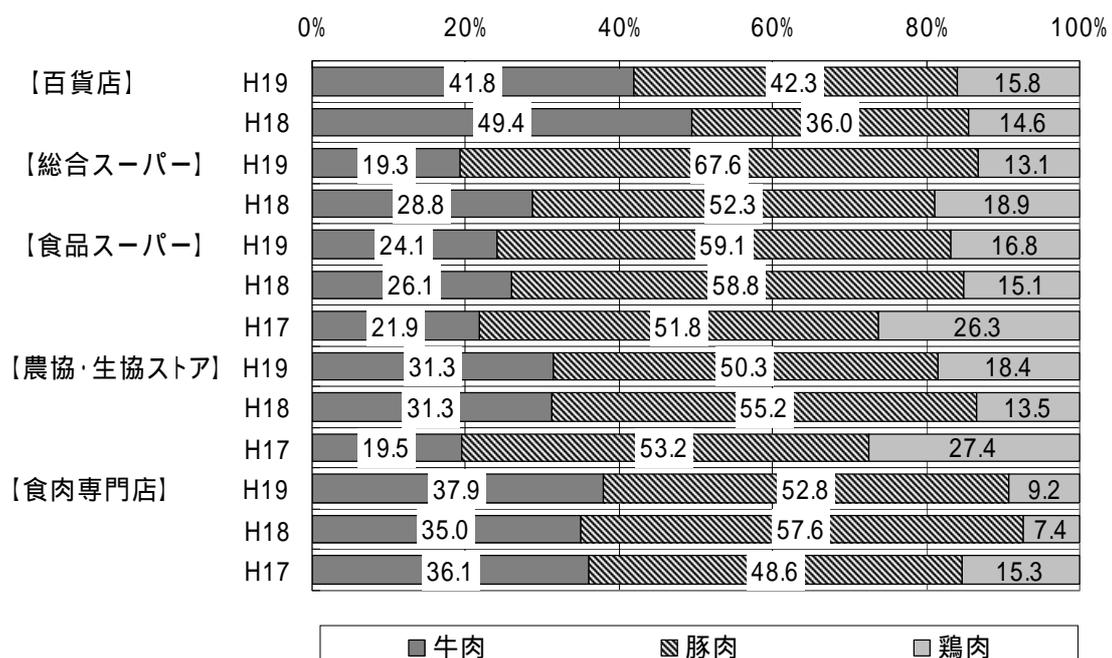
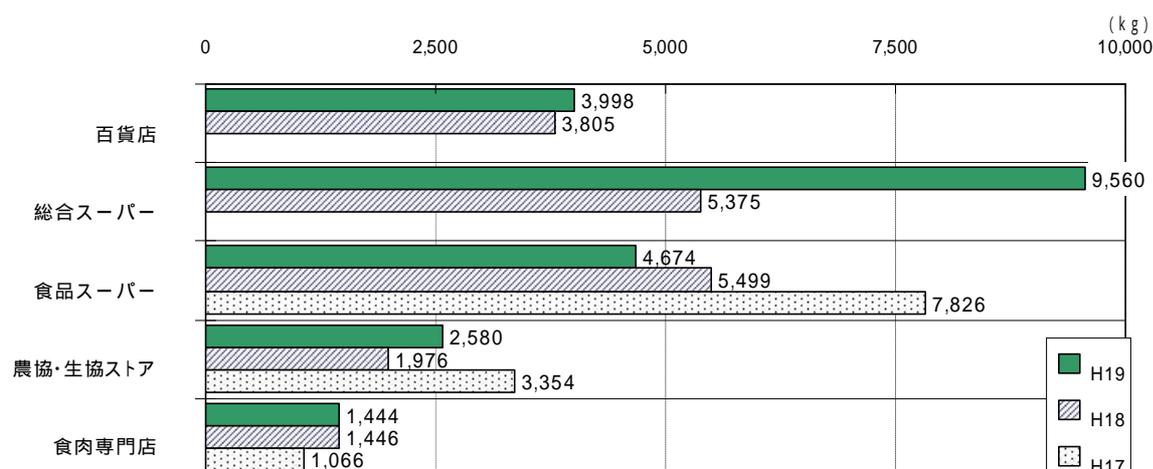


図 3-3 業態別 1 店当りの食肉仕入量 (N=701)



東日本は豚肉仕入比率が 60%以上、西日本は 50%以下。

地域別に肉種別仕入構成みると、「北海道」、「東北」、「関東」など東日本地域では豚肉仕入比率が 60%を超えている (表 3-3)。これに対し西日本各地域は 50%以下である。

【経年比較調査】

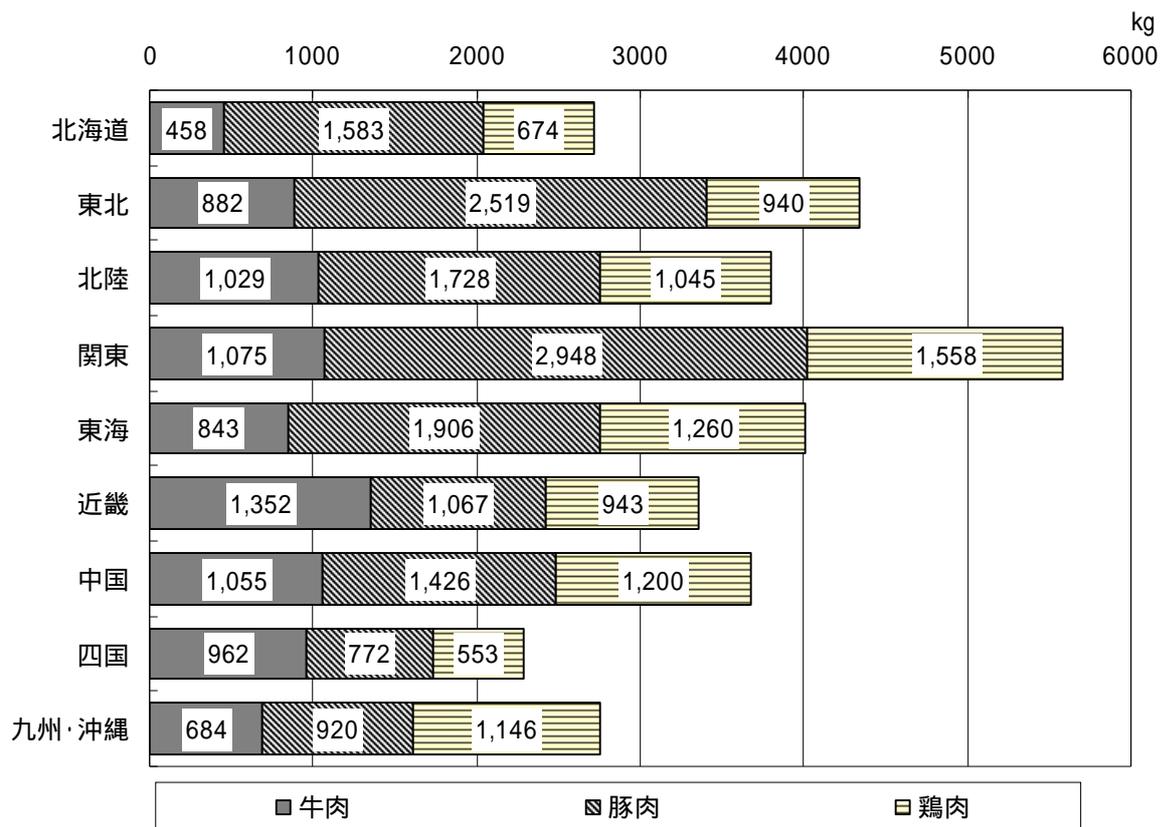
1 店当り仕入量合計では、「関東」「東海」「東北」が多い (表 3-3)。

表 3-3 地域別・肉種別 1 店当り食肉仕入構成比及び仕入量

単位: 店舗数、kg、%

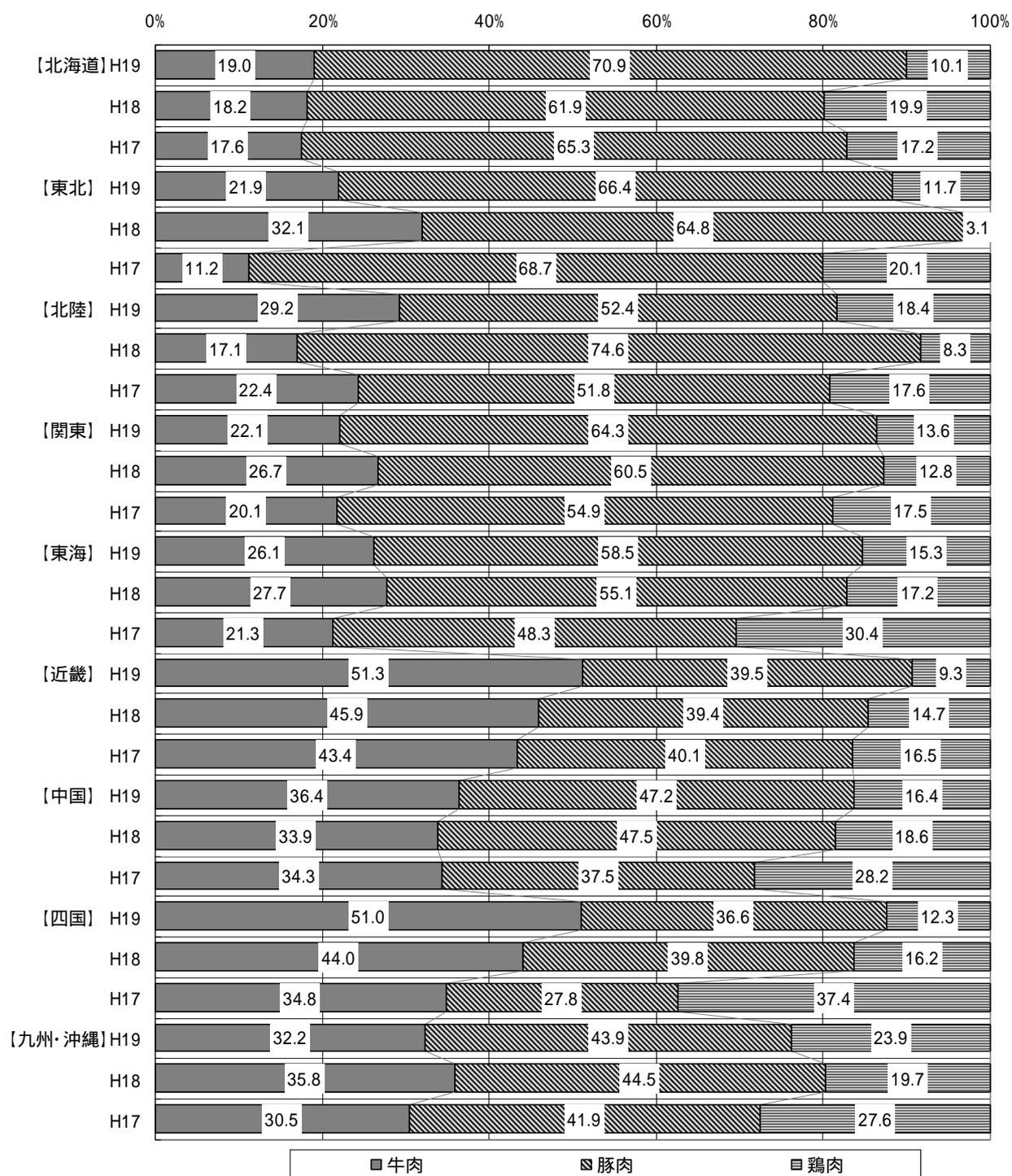
地域	年	回答店舗数	牛肉 (%)	豚肉 (%)	鶏肉 (%)	1 店当り仕入量 (kg)
【北海道】	H19	27	19.0	70.9	10.1	2,232
	H18	23	18.2	61.9	19.9	2,775
	H17	27	17.6	65.3	17.2	-
【東北】	H19	73	21.9	66.4	11.7	3,638
	H18	47	32.1	64.8	3.1	4,252
	H17	67	11.2	68.7	20.1	-
【北陸】	H19	32	29.2	52.4	18.4	3,195
	H18	37	17.1	74.6	8.3	3,481
	H17	35	22.4	51.8	17.6	-
【関東】	H19	218	22.1	64.3	13.6	4,478
	H18	185	26.7	60.5	12.8	3,413
	H17	166	20.1	54.9	17.5	-
【東海】	H19	110	26.1	58.5	15.3	3,137
	H18	85	27.7	55.1	17.2	3,269
	H17	73	21.3	48.3	30.4	-
【近畿】	H19	84	51.3	39.5	9.3	2,543
	H18	85	45.9	39.4	14.7	2,615
	H17	85	43.4	40.1	16.5	-
【中国】	H19	48	36.4	47.2	16.4	2,897
	H18	43	33.9	47.5	18.6	2,926
	H17	35	34.3	37.5	28.2	-
【四国】	H19	19	51.0	36.6	12.3	1,886
	H18	23	44.0	39.8	16.2	2,319
	H17	14	34.8	27.8	37.4	-
【九州・沖縄】	H19	89	32.2	43.9	23.9	2,050
	H18	78	35.8	44.5	19.7	1,576
	H17	63	30.5	41.9	27.6	-

図 3-4 地域別・肉種別 1 店当り食肉仕入量



1 店当り仕入量は、それぞれの肉種を仕入れた店舗数で肉種別総仕入量を除した平均仕入量である。したがって、「図 3-4 地域別肉種別 1 店当り食肉仕入量」はそれぞれの肉種別に当該肉種を仕入れた店舗数で除した平均値であるため、これを構成比で表しても、「図 3-5 地域別・肉種別仕入構成比」の構成比と必ずしも一致しない。(以下同様)

図 3-5 地域別・肉種別仕入構成比(平成 19 年 10 月分)



2. 牛肉仕入構成と仕入量（平成 19 年 10 月分）

(1) 牛肉の仕入構成

牛肉の仕入構成は「和牛肉」が 41%、「国産交雑種」が 21%、「豪州産牛肉」が 19%。

牛肉の商品別仕入構成は表 3-4 に示すとおりである。業態別では、「食肉専門店」、「百貨店」、「農協・生協ストア」は「和牛肉」が多く、それぞれ 50%以上を占めている。「食品スーパー」では「国産交雑種」が 26.3%、「和牛肉」が 25.0%、「豪州産牛肉」が 23.1%「国産乳用種」が 21.3%の順になっている。「総合スーパー」では「豪州産牛肉」が 41.0%で一番多く、続いて「和牛肉」が 26.5%となっている。

地域別では「和牛肉」の仕入比率は、「近畿」が 57.3%で最も高く、「東海」が 52.7%となっている。「国産交雑種」は「東北」が 29.9%、「四国」が 29.7%、「北陸」が 24.4%、「中国」が 24.0%と各地域に満遍なく普及している。「関東」は「和牛肉」が 33.4%、「豪州産牛肉」が 31.1%、「国産交雑種」が 21.2%の順である。

表 3-4 牛肉の品種別仕入構成(平成 19 年 10 月分)

単位:店舗数、kg、%

	回答 店舗数	仕入量 /店 (kg)	和牛肉	国産 乳用種	国産 交雑種	その他	米国産 牛肉	豪州産 牛肉	その他 輸入牛	
【総数】	663	973	40.8	15.6	21.3	0.9	1.8	18.8	0.7	
業 態 別	百貨店	48	1,673	53.4	10.6	24.3	2.5	0.2	8.9	0.1
	総合スーパー	61	1,873	26.5	18.0	9.0	1.2	4.0	41.0	0.3
	食品スーパー	193	1,158	25.0	21.3	26.3	0.6	2.4	23.1	1.2
	農協・生協ストア	45	827	56.0	18.8	17.2	1.1	-	5.3	1.6
	食肉専門店	316	601	59.6	9.0	22.3	0.3	0.9	7.3	0.6
地 域 別	北海道	25	458	26.3	13.8	9.0	0.7	1.1	47.8	1.3
	東北	66	882	40.5	12.4	29.9	-	4.4	12.3	0.5
	北陸	29	1,029	23.2	41.2	24.4	-	0.5	10.0	0.7
	関東	201	1,075	33.4	10.0	21.2	0.4	3.0	31.1	0.9
	東海	107	843	52.7	12.4	15.6	0.7	0.8	16.7	1.0
	近畿	81	1,352	57.3	11.9	22.6	-	0.2	7.7	0.3
	中国	48	1,055	34.6	29.1	24.0	3.1	0.5	8.6	0.2
	四国	19	962	39.2	23.9	29.7	-	0.8	6.3	-
九州・沖縄	86	684	37.5	23.2	16.0	4.5	2.0	15.5	1.4	

【経年比較調査】

牛肉の品種別仕入構成推移は図 3-6 に示すとおりである。全体的にみると、「和牛肉」、「国産交雑種」が減少し、「豪州産牛肉」、「国産乳用種」が増加している。

業態別にみると、「総合スーパー」は「和牛肉」「豪州産牛肉」を増加させている。「食品スーパー」が「国産交雑種」「和牛肉」「豪州産牛肉」「国産乳用種」をバランスよく仕入れている。「食肉専門店」は「和牛肉」が減少し、「国産交雑種」を増加させている。「農協・生協ストア」は「和牛肉」志向が強くなっている。

図 3-6 牛肉の品種別仕入構成推移(全体)

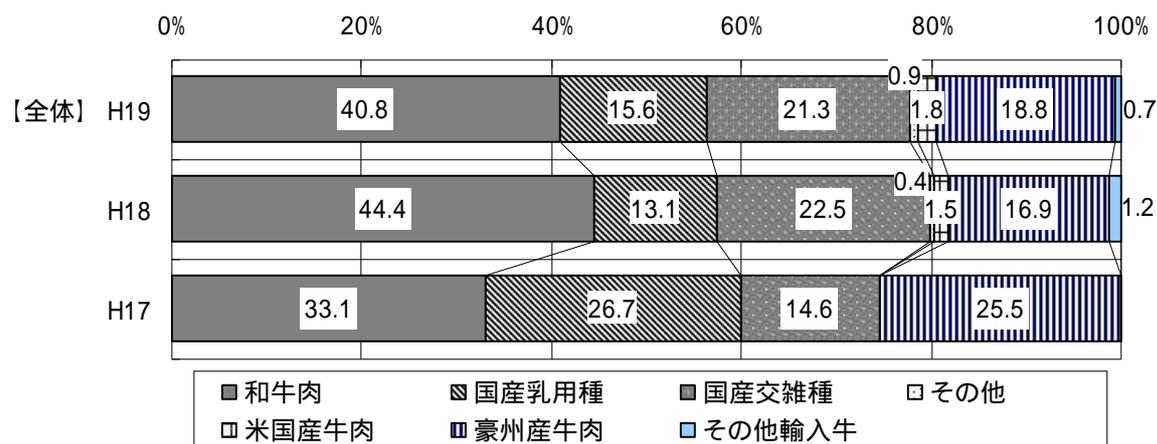


表 3-5 業種別・品種別牛肉の仕入構成推移

単位: 店舗数、kg、%

業態別	回答店舗数	1店当り仕入量(kg)	和牛肉	国産乳用種	国産交雑種	その他	米国産牛肉	豪州産牛肉	その他輸入牛	
【全体】	H19	663	973	40.8	15.6	21.3	0.9	1.8	18.8	0.7
	H18	568	978	44.4	13.1	22.5	0.4	1.5	16.9	1.2
	H17	535	848	33.1	26.7	14.6	-	-	25.5	-
【百貨店】	H19	48	1,673	53.4	10.6	24.3	2.5	0.2	8.9	0.1
	H18	29	1,879	63.5	11.1	16.8	0.1	-	7.9	0.7
	H17	-	-	-	-	-	-	-	-	-
【総合スーパー】	H19	61	1,873	26.5	18.0	9.0	1.2	4.0	41.0	0.3
	H18	51	1,547	16.9	12.9	32.7	0.3	-	35.9	1.2
	H17	-	-	-	-	-	-	-	-	-
【食品スーパー】	H19	193	1,158	25.0	21.3	26.3	0.6	2.4	23.1	1.2
	H18	162	1,460	33.5	19.1	25.3	0.3	1.4	19.3	1.1
	H17	163	1,767	19.7	30.3	16.5	-	-	33.5	-
【農協・生協】	H19	45	827	56.0	18.8	17.2	1.1	-	5.3	1.6
	H18	22	647	40.5	18.7	24.9	-	-	9.7	6.2
	H17	49	652	39.0	44.5	4.7	-	-	11.4	-
【食肉専門店】	H19	316	601	59.6	9.0	22.3	0.3	0.9	7.3	0.6
	H18	304	564	66.3	4.9	15.4	0.8	3.1	8.5	1.0
	H17	323	414	60.8	14.7	13.1	-	-	11.8	-

(2) 商品別にみる牛肉の仕入形態

和牛肉

「和牛肉」平均仕入量は 472kg。仕入形態は「枝肉」が 36% 「セット」が 30% 「パーツ」が 26%。

「和牛肉」の平成 19 年 10 月の平均仕入量は、「百貨店」が 913kg、「農協・生協ストア」が 612kg、「総合スーパー」が 532kg、「食肉専門店」が 431kg の順となっている。「百貨店」「総合スーパー」「食品スーパー」の仕入形態は「部分肉セット」が 30～45% を占めているが、「食肉専門店」は「枝肉」が 52.1%、「部分肉パーツ」が 27.4% となっており、「部分肉セット」は 20.1% に過ぎない。

地域別に「和牛肉」の 1 店当り平均仕入量をみると、「近畿」が 815kg、「東海」が 541kg、「東北」が 462kg、「関東」が 437kg となっている。仕入形態では、「東海」、「北陸」の枝肉仕入が 50% 以上となっている。「近畿」は「枝肉」が 42.3%、「部分肉パーツ」が 32.7%、「部分肉セット」が 24.4% と仕入形態の多様化がみられる。「関東」は「部分肉セット」が 38.3% である。

図 3-7 「和牛肉」の形態別仕入構成比

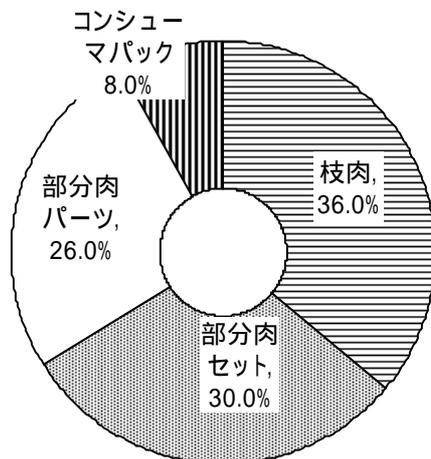


表 3-6 和牛肉の形態別仕入構成比と仕入量

単位: 店舗数、kg、%

	回答数	総仕入量	平均仕入量	形態別仕入量構成比				
				枝肉	部分肉セット	部分肉パーツ	コンシューマパック	
総数	557	255,809	472	36.0%	30.0%	26.0%	8.0%	
業態別	百貨店	47	38,138	913	21.6%	41.9%	36.5%	0.0%
	総合スーパー	57	30,097	532	7.1%	30.3%	13.8%	48.9%
	食品スーパー	156	53,509	358	18.1%	44.9%	28.0%	9.0%
	農協・生協ストア	34	20,999	612	62.6%	23.4%	12.1%	1.9%
	食肉専門店	263	113,066	431	52.1%	20.1%	27.4%	0.4%
地域別	北海道	22	3,333	137	0.0%	66.0%	20.3%	13.7%
	東北	51	23,546	462	48.5%	19.8%	23.1%	8.6%
	北陸	23	6,925	301	50.9%	32.7%	12.7%	3.7%
	関東	165	69,166	437	20.7%	38.3%	23.1%	17.8%
	東海	88	45,554	541	59.6%	12.3%	18.9%	9.2%
	近畿	77	62,476	815	42.3%	24.4%	32.7%	0.7%
	中国	43	15,523	408	23.6%	49.7%	26.6%	0.1%
	四国	16	7,130	448	38.2%	28.2%	32.3%	1.3%
	九州・沖縄	71	21,781	311	13.0%	46.9%	37.5%	2.5%

「枝肉」は部分肉ベース(歩留率 70%)で換算して算出。(以下同様)

国産牛肉乳用種

「国産乳用種」の平均仕入量は350kg。仕入形態は「パーツ」が40%、「セット」が28%。

「国産乳用種」の平成19年10月の平均仕入量は、「総合スーパー」が477kg、「食品スーパー」が422kg、「百貨店」が355kgであり、「食肉専門店」は206kgで「食品スーパー」の1/2である。

仕入形態は、「百貨店」では「部分肉パーツ」が63.7%を占めている。「総合スーパー」は「コンシューマパック」が53.6%、「部分肉パーツ」が28.1%であり、両方で80%以上を占めている。大手「総合スーパー」は「コンシューマパック」での店舗への搬入が多くなっていることを反映している。「食品スーパー」は「部分肉セット」が39.3%、「部分肉パーツ」が38.0%である。「食肉専門店」は「部分肉パーツ」が54.8%、「枝肉」が39.0%となっている。

地域別の平均仕入量は、「四国」が547kg、「北陸」が534kgとなっている。

図3-8 国産牛肉乳用種の形態別仕入構成比

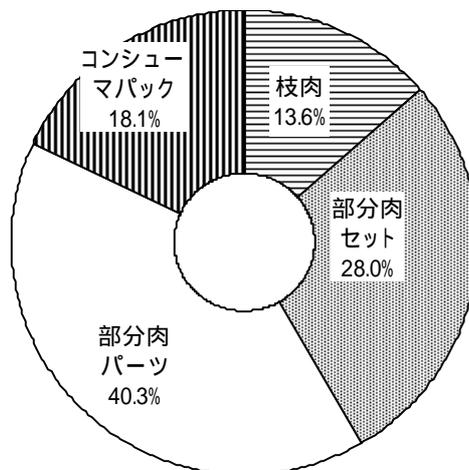


表3-7 国産牛肉乳用種の形態別仕入構成比と仕入量

単位: 店舗数、kg、%

	回答数	総仕入量	平均仕入量	形態別仕入量構成比				
				枝肉	部分肉セット	部分肉パーツ	コンシューマパック	
総数	288	96,850	350	13.6%	28.0%	40.3%	18.1%	
業態別	百貨店	24	8,231	355	24.5%	10.4%	63.7%	1.3%
	総合スーパー	43	20,432	477	1.2%	17.1%	28.1%	53.6%
	食品スーパー	113	45,471	422	9.3%	39.3%	38.0%	13.4%
	農協・生協ストア	25	6,063	279	3.3%	64.5%	27.4%	4.8%
	食肉専門店	83	16,653	206	39.0%	5.8%	54.8%	0.4%
地域別	北海道	14	1,582	113	-	50.7%	41.4%	7.9%
	東北	34	7,103	212	-	9.5%	66.8%	23.7%
	北陸	23	11,781	534	50.1%	8.6%	24.1%	17.2%
	関東	56	21,130	386	5.6%	19.7%	31.6%	43.2%
	東海	35	11,054	320	11.8%	20.1%	36.7%	31.5%
	近畿	33	11,700	394	26.5%	27.0%	43.8%	2.7%
	中国	33	14,346	446	2.3%	51.9%	45.6%	0.2%
	四国	8	3,529	547	9.1%	23.5%	67.4%	-
	九州・沖縄	51	13,475	267	7.8%	44.2%	42.7%	5.3%

「枝肉」は部分肉ベース(歩留率70%)で換算して算出。

国産牛肉交雑種

「国産交雑種」の平均仕入量は370kg。仕入形態は「パーツ」「セット」とも37%。

「国産交雑種」の1店当り仕入量は、「百貨店」が592kg、「総合スーパー」が342kg、「食品スーパー」が452kgであり、「食肉専門店」は275kgに過ぎない。「総合スーパー」の仕入形態は「部分肉セット」が46.4%、「部分肉パーツ」が33.0%を占めており、「食品スーパー」も「部分肉セット」が45.9%、「部分肉パーツ」37.9%と同様の傾向を見せている。

地域別の平均仕入量は、「四国」が543kg、「近畿」が527kg、「東北」が513kgの順となっている。仕入形態は、「関東」は「部分肉セット」が52.5%、「部分肉パーツ」36.1%なのに対し、「近畿」は「部分肉パーツ」が54.7%、「部分肉セット」20.8%である。

図3-9 国産牛肉交雑種の形態別仕入構成比

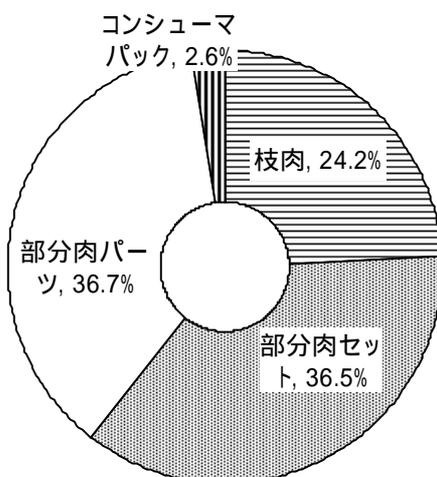


表3-8 国産牛肉交雑種の形態別仕入構成比と仕入量

単位:店舗数、kg、%

	回答数	総仕入量	平均仕入量	形態別仕入量構成比				
				枝肉	部分肉セット	部分肉パーツ	コンシューマパック	
総数	371	131,575	370	24.2%	36.5%	36.7%	2.6%	
業態別	百貨店	33	18,035	592	23.4%	34.3%	42.3%	-
	総合スーパー	30	9,064	342	18.5%	46.4%	33.0%	2.0%
	食品スーパー	130	56,030	452	10.7%	45.9%	37.9%	5.5%
	農協・生協ストア	24	6,136	267	31.2%	44.1%	21.3%	3.4%
	食肉専門店	154	42,309	275	42.5%	21.6%	35.8%	-
地域別	北海道	8	1,031	129	-	63.0%	37.0%	-
	東北	34	17,308	513	63.5%	10.1%	25.3%	1.1%
	北陸	15	7,180	487	30.2%	3.0%	37.3%	29.5%
	関東	125	41,993	366	10.0%	52.5%	36.1%	1.4%
	東海	59	13,584	239	40.3%	26.2%	30.8%	2.7%
	近畿	47	24,785	527	23.7%	20.8%	54.7%	0.8%
	中国	28	12,045	434	9.5%	62.7%	27.7%	-
	四国	10	4,182	543	38.3%	37.5%	24.3%	-
	九州・沖縄	44	9,416	214	3.2%	58.3%	38.5%	-

「枝肉」は部分肉ベース(歩留率70%)で換算して算出。

米国産牛肉

「米国産牛肉」の仕入は「食品スーパー」「総合スーパー」を中心に拡大中。

「米国産牛肉」は全国で97店が仕入れており（昨年20店）、平成19年10月の平均仕入量は、「総合スーパー」が220kg、「食品スーパー」が134kg、「食肉専門店」が49kgであった。仕入量では「食品スーパー」「総合スーパー」が大きい。

仕入形態は、「食品スーパー」「食肉専門店」で「部分肉パック」が多い。

図3-10 米国産牛肉の品種別仕入構成比

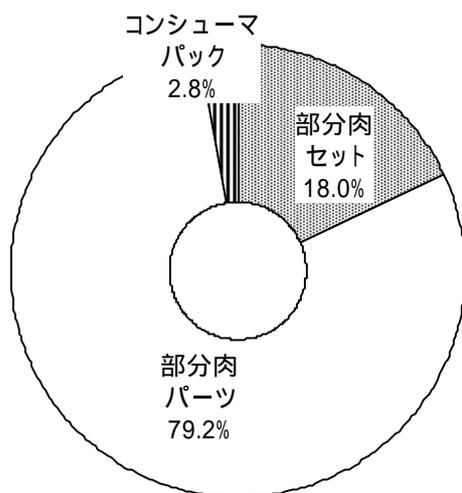


表3-9 米国産牛肉の形態別仕入構成比と仕入量

単位：店舗数、kg、%

	回答数	総仕入量	平均仕入量	形態別仕入量構成比				
				枝肉	部分肉 セット	部分肉 パーツ	コンシューマ パック	
総数	97	7,676	122	-	18.0%	79.2%	2.8%	
業態別	百貨店	1	136	136	-	-	-	-
	総合スーパー	21	2,736	220	-	33.1%	61.8%	5.1%
	食品スーパー	40	3,750	134	-	5.9%	92.8%	1.3%
	農協・生協ストア	-	-	-	-	-	-	-
	食肉専門店	35	1,130	49	-	22.2%	75.1%	2.7%
地域別	北海道	3	155	42	-	-	100.0%	-
	東北	18	1,888	141	-	31.6%	62.6%	5.8%
	北陸	3	60	48	-	100.0%	0.0%	-
	関東	30	4,046	219	-	13.4%	85.2%	1.4%
	東海	9	525	76	-	11.4%	79.0%	9.5%
	近畿	6	150	43	-	-	100.0%	-
	中国	5	118	46	-	-	100.0%	-
	四国	2	100	75	-	-	100.0%	-
	九州・沖縄	21	634	55	-	18.9%	80.6%	0.5%

豪州産牛肉

「豪州産牛肉」の平均仕入量は 376kg、仕入形態は「部分肉パ[°]ツ」「コンシューマ[°]ック」が中心
 「豪州産牛肉」の平成 19 年 10 月の 1 店当り平均仕入量は 376kg である。業態別にみると「百貨店」が 377kg、「総合スーパー」が 808kg、「食品スーパー」が 371kg であり、「百貨店」や「総合スーパー」、「食品スーパー」主導の仕入となっている。全体的にみると「国産牛肉」に押され、一時の拡大傾向は消えている。

仕入形態は「コンシューマ[°]ック」や「部分肉パ[°]ツ」での仕入の比重が高く、パーツ流通がメインとなっている。

図 3- 11 豪州産牛肉の品種別仕入構成比

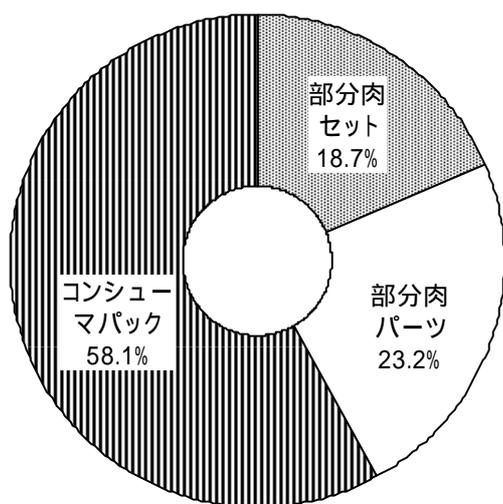


表 3- 10 豪州産牛肉の形態別仕入構成比と仕入量

単位: 店舗数、kg、%

	回答数	総仕入量	平均仕入量	形態別仕入量構成比				
				枝肉	部分肉 セット	部分肉 パーツ	コンシュー マパック	
総 数	323	52,223	376	-	18.7%	23.2%	58.1%	
業 態 別	百貨店	19	1,490	377	-	28.2%	71.8%	-
	総合スーパー	58	22,726	808	-	3.4%	4.8%	91.8%
	食品スーパー	139	21,687	371	-	34.3%	23.2%	42.6%
	農協・生協ストア	21	1,246	95	-	13.2%	69.5%	17.3%
	食肉専門店	86	5,074	161	-	19.7%	80.0%	0.3%
地 域 別	北海道	18	2,283	304	-	7.9%	51.8%	40.3%
	東北	36	3,576	199	-	10.5%	24.1%	65.4%
	北陸	17	587	176	-	35.8%	61.7%	2.6%
	関東	93	30,060	722	-	22.2%	9.6%	68.3%
	東海	46	8,224	328	-	2.6%	28.3%	69.2%
	近畿	33	1,470	255	-	31.6%	68.4%	-
	中国	25	603	174	-	16.3%	76.3%	7.5%
	四国	8	925	144	-	0.0%	99.5%	0.5%
	九州・沖縄	46	4,495	198	-	35.1%	47.3%	17.6%

3. 豚肉仕入構成と仕入量（平成 19 年 10 月分）

(1) 豚肉の仕入構成

仕入構成は、「その他国産豚肉」が 52%、これ以外の国産豚肉が 33%、「輸入豚肉」16%

豚肉の商品別仕入構成は表 3-11 のとおりである。国産豚肉は 84.5%と、圧倒的なシェアを占めている。国産豚肉のうち「その他国産豚肉」の仕入構成比は、一番大きく、51.7%であり、続いて「銘柄豚肉」が 20.0%である。「黒豚肉」は 5.1%、「SPF 豚肉」は 7.7%に過ぎなかった。

業態別にみると、「百貨店」の仕入構成比は、「その他国産豚肉」が 44.8%、「銘柄豚肉」が 33.2%、「黒豚肉」が 15.3%であり、「黒豚肉」も含む銘柄志向（差別志向）が強く示されている。「総合スーパー」は「その他国産豚肉」が 52.6%、「輸入豚肉」が 26.3%、「銘柄豚肉」が 11.3%と量販対応型販売指向が認められる。「食品スーパー」は「その他国産豚肉」が 46.6%、「銘柄豚肉」が 25.0%、「輸入豚肉」が 14.6%であり、量販対応型とともに銘柄志向も示されている。「農協・生協ストア」は、「その他国産豚肉」が 44.5%、「銘柄豚肉」が 21.9%、「SPF 豚肉」が 21.0%であり、量販志向とともに、銘柄・品質志向も認められる。「食肉専門店」は、「その他国産豚肉」が 64.3%であり、豚肉販売に関してはブランド志向が低い。

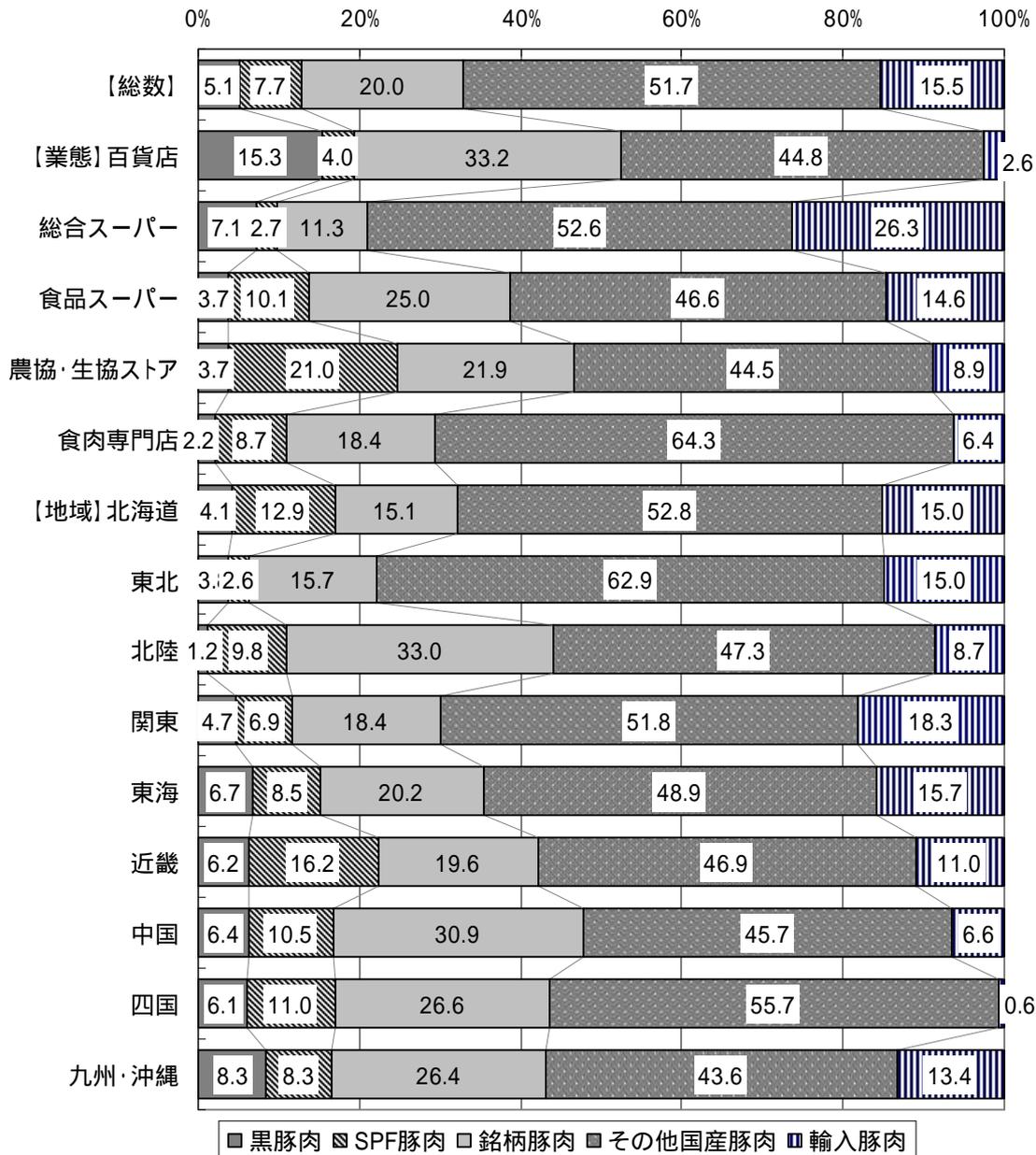
地域別にみると、各地域ともに「その他国産豚肉」の仕入構成比が高くなっている。しかし、「銘柄豚肉」、「SPF 豚肉」、「黒豚肉」の仕入が比較的多い地域は「東海」、「関東」、「近畿」、「中国」である。

表 3-11 豚肉の形態別仕入構成比と仕入量

単位：店舗数、kg、%

		回答 店舗数	仕入量/ 店(kg)	黒豚肉	SPF 豚肉	銘柄豚肉	その他国 産豚肉	輸入豚肉
【総数】		677	1,998	5.1	7.7	20.0	51.7	15.5
業 態 別	百貨店	48	1,692	15.3	4.0	33.2	44.8	2.6
	総合スーパー	61	6,567	7.1	2.7	11.3	52.6	26.3
	食品スーパー	193	2,833	3.7	10.1	25.0	46.6	14.6
	農協・生協ストア	43	1,388	3.7	21.0	21.9	44.5	8.9
	食肉専門店	332	798	2.2	8.7	18.4	64.3	6.4
地 域 別	北海道	27	1,583	4.1	12.9	15.1	52.8	15.0
	東北	70	2,519	3.8	2.6	15.7	62.9	15.0
	北陸	31	1,728	1.2	9.8	33.0	47.3	8.7
	関東	213	2,948	4.7	6.9	18.4	51.8	18.3
	東海	106	1,906	6.7	8.5	20.2	48.9	15.7
	近畿	79	1,067	6.2	16.2	19.6	46.9	11.0
	中国	46	1,426	6.4	10.5	30.9	45.7	6.6
	四国	17	772	6.1	11.0	26.6	55.7	0.6
	九州・沖縄	87	920	8.3	8.3	26.4	43.6	13.4

図 3-12 豚肉の品種別仕入構成



【経年比較調査】

平成 19 年 10 月の 1 店当り豚肉仕入量は 1,998kg であり、昨年度より大幅に増加している。特に、「輸入豚肉」が増加し、「銘柄豚肉」「SPF 豚肉」は横ばいないしは微減となっている。18 年度の「輸入豚肉」も仕入構成比は 8.9%となったが、19 年度には 15.5%と増加し、「国産豚肉」が 84.5%となっている。「国産豚肉」では「その他国産豚肉」「黒豚肉」は横ばいとなっている。「百貨店」の豚肉仕入量は 1,692kg で昨年より増加しているが、「総合スーパー」「食品スーパー」「食肉専門店」ともに仕入量は減少している。

図 3-13 豚肉の肉種別仕入構成推移

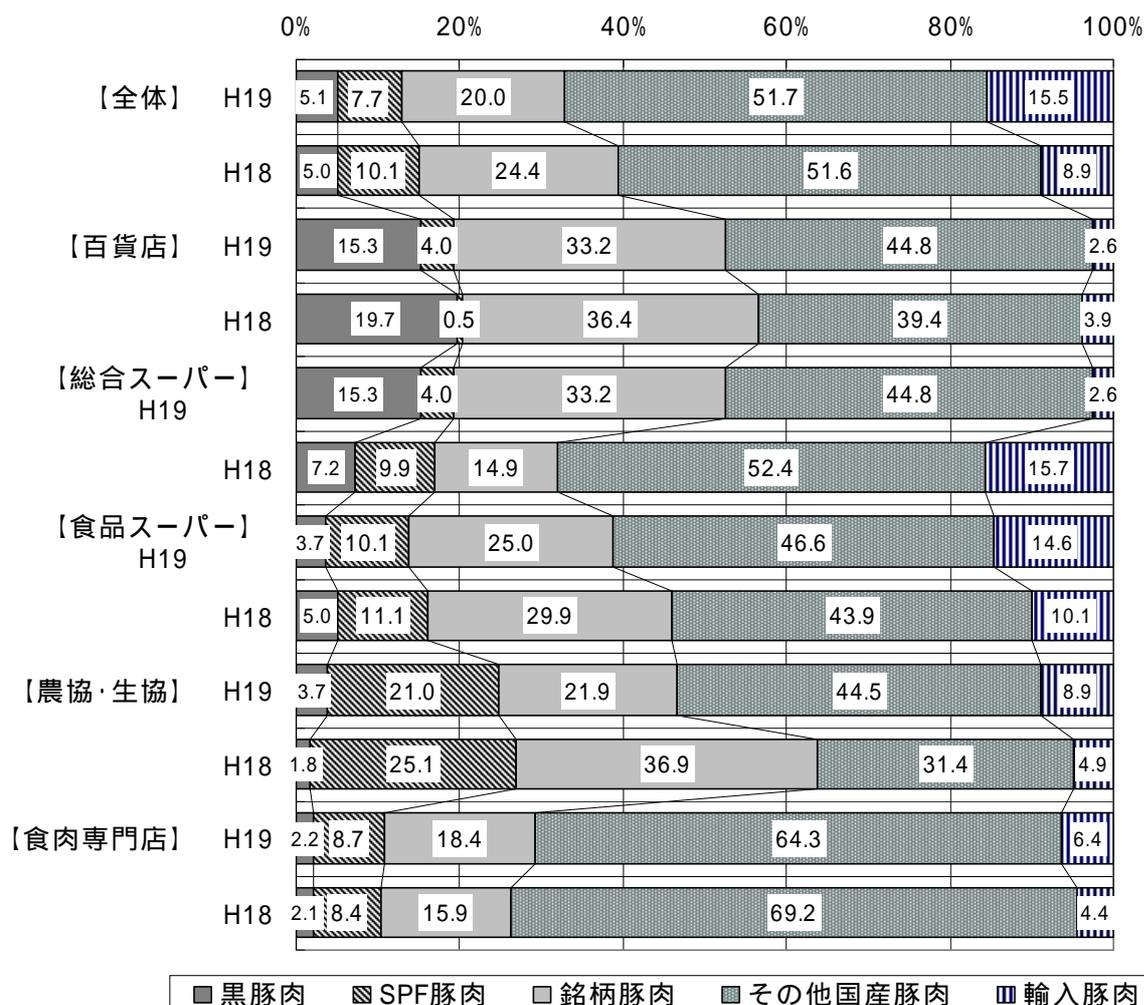


表 3-12 豚肉の商品別仕入構成推移(平成 19 年 10 月分)

単位:店舗数、kg、%

業態別	回答店舗数	1店当り仕入量(kg)	黒豚肉	SPF豚肉	銘柄豚肉	その他国産豚肉	国産豚肉計	輸入豚肉	
【全体】	H19	677	1,998	5.1	7.7	20.0	51.7	84.5	15.5
	H18	571	1,793	5.0	10.1	24.4	51.6	91.1	8.9
	H17	510	1,860	-	-	-	-	83.4	16.6
【百貨店】	H19	48	1,692	15.3	4.0	33.2	44.8	97.4	2.6
	H18	28	1,420	19.7	0.5	36.4	39.4	96.1	3.9
	H17	-	-	-	-	-	-	-	-
【総合スーパー】	H19	48	1,692	15.3	4.0	33.2	44.8	97.4	2.6
	H18	49	2,928	7.2	9.9	14.9	52.4	84.3	15.7
	H17	-	-	-	-	-	-	-	-
【食品スーパー】	H19	193	2,833	3.7	10.1	25.0	46.6	85.4	14.6
	H18	159	3,358	5.0	11.1	29.9	43.9	89.9	10.1
	H17	161	4,231	3.7	10.1	25.0	46.6	85.4	14.6
【農協・生協】	H19	43	1,388	3.7	21.0	21.9	44.5	91.1	8.9
	H18	19	1,320	1.8	25.1	36.9	31.4	85.1	4.9
	H17	45	1,942	-	-	-	-	96.8	3.2
【食肉専門店】	H19	332	798	2.2	8.7	18.4	64.3	93.6	6.4
	H18	316	891	2.1	8.4	15.9	69.2	95.6	4.4
	H17	304	593	-	-	-	-	84.1	15.9

(2) 商品別にみる豚肉の仕入形態

黒豚肉

「黒豚肉」の仕入量は318kg。仕入形態は「コンシューマパック」「部分肉セット」が中心。

「黒豚肉」の仕入形態は「コンシューマパック」が39.2%、「部分肉セット」が34.2%、「部分肉パーツ」が12.8%、「枝肉」が13.8%である。「コンシューマパック」が大幅に増えたのは大手「総合スーパー」がこの形態に切り替えているためである。他の業態は「部分肉セット」での仕入が多い。

業態別にみると、平均仕入量は、「総合スーパー」が679kgで最も多く、「百貨店」が414kg、「食品スーパー」が218kgの順である。

地域別にみると、平均仕入量は「東北」が552kg、「関東」が465kg、「東海」が452kgで3地域が飛びぬけている。仕入形態では「東北」「東海」が「コンシューマパック」、その他の地域は「部分肉セット」が多い。

図 3- 14 黒豚肉の形態別仕入量構成比

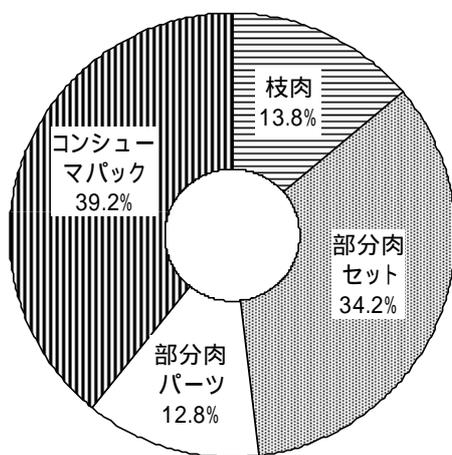


表 3- 13 黒豚肉の形態別仕入構成比と仕入量

単位: 店舗数、kg、%

	回答数	総仕入量	平均仕入量	形態別仕入量構成比				
				枝肉	部分肉セット	部分肉パーツ	コンシューマパック	
総数	217	64,433	318	13.8%	34.2%	12.8%	39.2%	
業態別	百貨店	30	9,924	414	41.1%	44.9%	11.9%	2.0%
	総合スーパー	42	28,536	679	5.3%	12.5%	7.2%	74.9%
	食品スーパー	92	17,911	218	7.4%	56.9%	15.6%	20.2%
	農協・生協ストア	17	2,218	131	34.8%	39.4%	21.7%	4.1%
	食肉専門店	36	5,845	162	20.3%	50.4%	29.3%	0.0%
地域別	北海道	15	1,764	118	-	50.9%	5.7%	43.4%
	東北	12	6,621	552	-	26.3%	6.8%	66.9%
	北陸	6	646	108	-	61.3%	38.7%	-
	関東	63	27,372	465	16.0%	26.5%	9.3%	48.3%
	東海	30	11,659	452	9.9%	27.8%	7.4%	54.9%
	近畿	23	4,682	229	15.0%	50.6%	34.0%	0.4%
	中国	18	4,087	232	22.8%	63.7%	13.5%	-
	四国	8	787	100	10.2%	36.8%	27.6%	25.4%
九州・沖縄	41	6,541	162	25.0%	49.7%	21.4%	3.8%	

SPF 豚肉

「SPF 豚肉」の仕入量は806kg、仕入は「部分肉セット」と「部分肉パーツ」が中心。

「SPF 豚肉」の平均仕入量は、「食品スーパー」が1,414kg、農協・生協ストアは1,256kg、「総合スーパー」が822kgとなっている。「食肉専門店」は384kgであり、スーパーと比べるとかなり低い仕入量となっている。

仕入形態は「総合スーパー」は「部分肉パーツ」での仕入比率が多く、「食品スーパー」は「部分肉セット」が多い。「総合スーパー」は「部分肉パーツ」が54.7%、「食品スーパー」は「部分肉セット」が62.3%である。これに対し「食肉専門店」は「枝肉」が高く、55.4%である。

地域別にみると、「関東」と「東海」の平均仕入量が多くなっており、「関東」が1,244kg、「東海」が1,144kgである。この地域の仕入形態は「部分肉セット」のウエイトが高くなっている。

図3-15 SPF 豚肉の形態別仕入量構成比

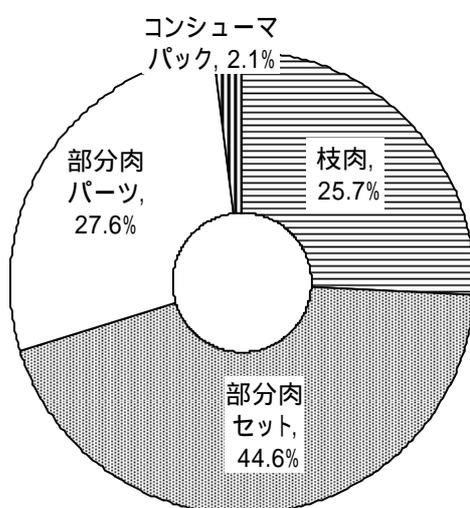


表3-14 SPF 豚肉の形態別仕入構成比と仕入量

単位:店舗数、kg、%

	回答数	総仕入量	平均仕入量	形態別仕入量構成比				
				枝肉	部分肉セット	部分肉パーツ	コンシューマパック	
総数	130	100,775	806	25.7%	44.6%	27.6%	2.1%	
業態別	百貨店	8	3,281	410	65.6%	20.7%	13.7%	-
	総合スーパー	13	10,690	822	-	30.4%	54.7%	14.9%
	食品スーパー	39	52,502	1,414	14.3%	62.3%	23.4%	-
	農協・生協ストア	10	11,262	1,256	31.1%	44.2%	20.5%	4.2%
	食肉専門店	60	23,040	384	55.4%	14.4%	30.2%	0.1%
地域別	北海道	9	5,515	613	-	24.8%	73.6%	1.6%
	東北	11	4,599	418	16.0%	54.1%	29.9%	-
	北陸	7	5,265	752	57.9%	28.5%	13.3%	0.3%
	関東	35	43,541	1,244	26.3%	66.8%	6.9%	-
	東海	15	15,609	1,144	48.0%	30.8%	18.1%	3.1%
	近畿	22	11,243	620	8.0%	26.0%	66.0%	-
	中国	9	6,890	766	9.6%	13.9%	76.5%	-
	四国	3	1,440	480	22.2%	8.3%	69.4%	-
	九州・沖縄	19	6,672	351	19.7%	25.1%	32.7%	22.5%

銘柄豚肉

「銘柄豚肉」の平均仕入量は846kg、「部分肉セット」仕入が46%を占める。

「銘柄豚肉」の平均仕入量は、「総合スーパー」が1,257kgと一番多く、続いて「食品スーパー」が1,212kg、「百貨店」が749kgである。「農協・生協ストア」は621kg、「食肉専門店」は427kgであり、「総合スーパー」の1/3程度である。仕入形態は「食品スーパー」「百貨店」は「部分肉セット」仕入のウエイトが高い。「食品スーパー」は「部分肉セット」が63.2%、「百貨店」が47.2%である。しかし、「食肉専門店」「農協・生協ストア」は枝肉仕入のウエイトが高く、各々48.8%、37.2%である。また、「総合スーパー」は「コンシューマパック」が55.5%となっている。

地域別にみると、「関東」、「中国」、「北陸」の平均仕入量が多く、「関東」が1,130kg、「中国」が1,126kg、「北陸」が982kgである。仕入形態では、「関東」、「北陸」、「東北」などの東日本は「部分肉セット」、西日本は「部分肉パーツ」の仕入比率が比較的高い。

図3-16 銘柄豚肉の形態別仕入量構成比

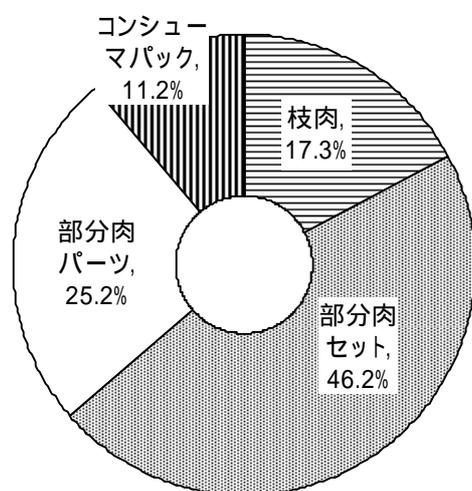


表3-15 銘柄豚肉の形態別仕入構成比と仕入量

単位: 店舗数、kg、%

		回答数	総仕入量	平均仕入量	形態別仕入量構成比			
					枝肉	部分肉セット	部分肉パーツ	コンシューマパック
総数		320	257,283	846	17.3%	46.2%	25.2%	11.2%
業態別	【業態】百貨店	36	26,842	749	18.4%	47.2%	31.1%	3.3%
	総合スーパー	36	43,240	1,257	8.5%	26.1%	9.8%	55.5%
	食品スーパー	113	128,180	1,212	6.6%	63.2%	28.0%	2.2%
	農協・生協ストア	21	11,581	621	37.2%	34.1%	22.0%	6.7%
	食肉専門店	114	47,440	427	48.8%	21.2%	29.3%	0.7%
地域別	【地域】北海道	14	6,464	462	-	61.6%	30.6%	7.8%
	東北	40	25,866	694	6.4%	49.3%	33.4%	11.0%
	北陸	18	13,669	982	5.9%	91.5%	2.5%	0.1%
	関東	102	112,646	1,130	18.2%	54.6%	13.2%	14.0%
	東海	49	39,614	831	35.7%	22.8%	21.0%	20.6%
	近畿	32	16,137	517	15.5%	15.1%	67.5%	1.9%
	中国	18	20,158	1,126	2.9%	23.0%	74.0%	0.1%
	四国	5	2,294	699	-	78.3%	5.1%	16.6%
	九州・沖縄	41	18,835	515	23.5%	46.0%	25.6%	4.9%

その他国産豚肉

「その他国産豚肉」の平均仕入量は1,481kg、仕入形態は多様化傾向。

「その他国産豚肉」の平均仕入量は、「総合スーパー」が5,020kg、「食品スーパー」が1,887kgであり、「農協・生協ストア」や「食肉専門店」は「食品スーパー」の半分程度の仕入量である。仕入形態では、「食品スーパー」は「部分肉パ[°]ツ」「部分肉セ[°]ツ」「コンシューマパ[°]ック」が同程度の比率であるが、「総合スーパー」は「コンシューマパ[°]ック」が半分を占めている。「百貨店」は「部分肉パ[°]ツ」が47.9%、「部分肉セ[°]ツ」が43.7%である。

地域別にみると「東北」、「関東」の平均仕入量が非常に多く、「東北」が2,218kg、「関東」が2,167kgである。仕入形態では、「四国」「北海道」「近畿」、「中国」は「部分肉パ[°]ツ」仕入依存度が高い。

図3-17 その他国産豚肉形態別仕入量構成比

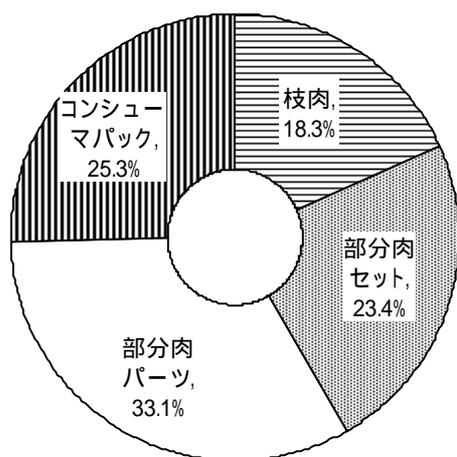


表3-16 その他国産豚肉の形態別仕入構成比と仕入量

単位：店舗数、kg、%

	回答数	総仕入量	平均仕入量	形態別仕入量構成比				
				枝肉	部分肉セツ	部分肉パーツ	コンシューマパック	
総数	472	673,393	1,481	18.3%	23.4%	33.1%	25.3%	
業態別	百貨店	38	31,940	958	8.1%	43.7%	47.9%	0.3%
	総合スーパー	42	208,228	5,020	3.4%	16.5%	29.1%	51.0%
	食品スーパー	135	242,630	1,887	8.4%	32.9%	33.7%	24.9%
	農協・生協ストア	33	26,246	804	16.0%	28.1%	46.3%	9.6%
	食肉専門店	224	164,349	761	53.9%	13.5%	32.1%	0.6%
地域別	北海道	21	22,567	1,075	-	17.8%	79.9%	2.2%
	東北	50	110,812	2,218	47.1%	10.3%	21.4%	21.1%
	北陸	22	25,011	1,151	28.2%	28.3%	29.4%	14.0%
	関東	150	306,204	2,167	11.3%	30.3%	23.3%	35.2%
	東海	74	97,612	1,335	23.3%	17.7%	32.1%	27.0%
	近畿	52	38,844	760	11.3%	7.1%	64.3%	17.2%
	中国	36	28,517	832	4.1%	31.2%	61.4%	3.3%
	四国	14	4,398	522	-	6.1%	93.9%	-
	九州・沖縄	52	34,927	672	2.5%	37.9%	56.4%	3.3%

輸入豚肉

「輸入豚肉」の平均仕入量は740kg、仕入形態は「部分肉パツ」が中心。

「輸入豚肉」の平均仕入量は、「総合スーパー」が1,986kg、「食品スーパー」が629kgに対して「農協・生協ストア」は353kg、「食肉専門店」は216kg、「百貨店」は214kgに過ぎない。これは、大手の「総合スーパー」中心の仕入状況を示している。仕入形態ではスーパー系は、「部分肉パツ」が66～75%程度を占めており、「食肉専門店」は81%となっている。

地域別にみると、平均仕入量は「関東」「東北」が多く、「関東」が1,319kg、「東北」が978kgである。

図3-18 輸入豚肉の形態別仕入量構成比

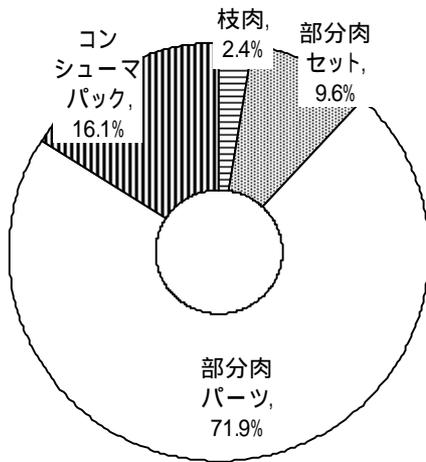


表3-17 輸入豚肉の形態別仕入構成比と仕入量

単位: 店舗数、kg、%

	回答数	総仕入量	平均仕入量	形態別仕入量構成比				
				枝肉	部分肉セット	部分肉パツ	コンシューマパック	
総数	283	198,522	740	2.4%	9.6%	71.9%	16.1%	
業態別	百貨店	10	2,142	214	-	5.1%	94.9%	-
	総合スーパー	53	101,539	1,986	0.2%	4.7%	74.6%	20.6%
	食品スーパー	127	73,189	629	3.7%	15.5%	66.1%	14.6%
	農協・生協ストア	15	5,294	353	1.9%	24.6%	65.7%	7.8%
	食肉専門店	78	16,359	216	10.1%	9.2%	80.5%	0.2%
地域別	北海道	20	6,190	322	-	7.3%	81.3%	11.5%
	東北	27	26,018	978	5.0%	6.6%	81.3%	7.0%
	北陸	15	3,770	311	34.5%	2.1%	63.1%	0.3%
	関東	87	109,272	1,319	0.5%	11.5%	66.4%	21.6%
	東海	43	31,834	739	3.8%	1.2%	79.2%	15.8%
	近畿	25	8,511	371	-	3.6%	92.4%	4.1%
	中国	22	4,261	196	2.3%	-	96.2%	1.4%
	四国	3	83	28	-	20.6%	79.4%	-
	九州・沖縄	40	7,584	268	3.3%	45.7%	44.7%	6.3%

4. 鶏肉仕入構成と仕入量（平成 19 年 10 月分）

(1) 鶏肉の仕入構成

鶏肉の平均仕入量は 1,215kg、「国産鶏肉」が 96%を占めている。

1 店当りの平均仕入量は、表 3-18 に示したとおり、「総合スーパー」が 2,686kg、「食品スーパー」が 1,807kg であり、「農協・生協ストア」が 990kg となっている。

鶏肉の商品別仕入構成は、「国産鶏肉」が 95.7%を占めている。業態別にみると、「食肉専門店」の「国産鶏肉」の仕入構成比は 90.6%で最も低く、「百貨店」は 100%に達している。「食品スーパー」が 96.4%、「総合スーパー」が 94.7%、「農協・生協ストア」が 99.7%となっている。

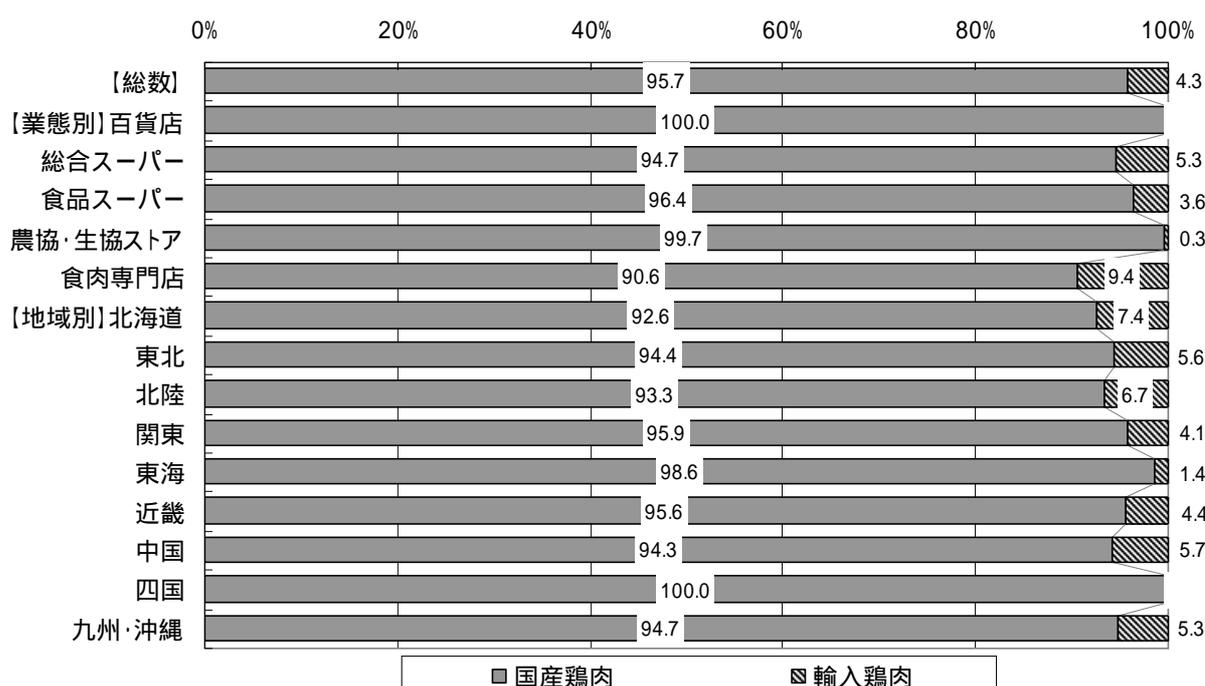
地域別にみると、「四国」「東海」「近畿」「関東」で「国産鶏肉」の仕入構成比は 95%以上である。

表 3- 18 鶏肉の品種別仕入構成と仕入量

単位:店舗数、kg、%

		回答数 (店舗数)	1 店当り 仕入量(kg)	国産鶏肉	輸入鶏肉
【総数】		273	1,215	95.7	4.3
業 態 別	百貨店	24	1,268	100.0	-
	総合スーパー	29	2,686	94.7	5.3
	食品スーパー	86	1,807	96.4	3.6
	農協・生協ストア	22	990	99.7	0.3
	食肉専門店	112	414	90.6	9.4
地 域 別	北海道	9	674	92.6	7.4
	東北	33	940	94.4	5.6
	北陸	18	1,045	93.3	6.7
	関東	85	1,558	95.9	4.1
	東海	42	1,260	98.6	1.4
	近畿	21	943	95.6	4.4
	中国	19	1,200	94.3	5.7
	四国	8	553	100.0	-
	九州・沖縄	38	1,146	94.7	5.3

図 3- 19 鶏肉の品種別仕入構成比（平成 19 年 10 月分）



【経年比較調査】

鶏肉の経年変化をみると、今年度に入って「輸入鶏肉」の仕入が大きく減少した（表 3-19）。平成 18 年度には 11.0%であった「輸入鶏肉」の仕入構成比は、19 年度には 4.3%に減少している。全ての業態で「国産鶏肉」への転換が示されており、「国産鶏肉」の仕入比率が増加している。

表 3- 19 鶏肉の品種別仕入構成推移

単位：店舗数、kg、%

業態別	回答店舗数	1店当り 仕入量 (kg)	国産鶏肉	輸入鶏肉	
【全体】	H19	273	1,215	95.7	4.3
	H18	209	1,181	89.0	11.0
	H17	360	1,243	91.8	8.2
【百貨店】	H19	24	1,268	100.0	-
	H18	12	1,338	99.7	0.3
【総合スーパー】	H19	29	2,686	94.7	5.3
	H18	18	2,875	87.8	12.2
【食品スーパー】	H19	86	1,807	96.4	3.6
	H18	56	2,445	88.8	11.2
	H17	126	2,742	91.8	8.2
【農協・生協ストア】	H19	22	990	99.7	0.3
	H18	4	1,533	98.8	1.2
	H17	33	1,363	97.8	2.2
【食肉専門店】	H19	112	414	90.6	9.4
	H18	119	303	85.1	14.9
	H17	201	283	87.2	12.8

5. 食肉仕入時の重視項目

(1) 品種別食肉仕入の重視項目

食肉仕入の際には、「価格」、「肉色」、「産地」が重視されている。

食材仕入の重視項目は図 3-20 に示したとおりである。

「和牛肉」は「価格」が 22.7%、「産地」が 19.0%、「肉色」が 16.4%、「脂肪交雑」が 13.3%

「国産乳用種」は「価格」が 29.2%「肉色」が 26.1%

「国産交雑種」は「価格」が 26.9%、「肉色」が 21.4%、「脂肪交雑」が 15.9%

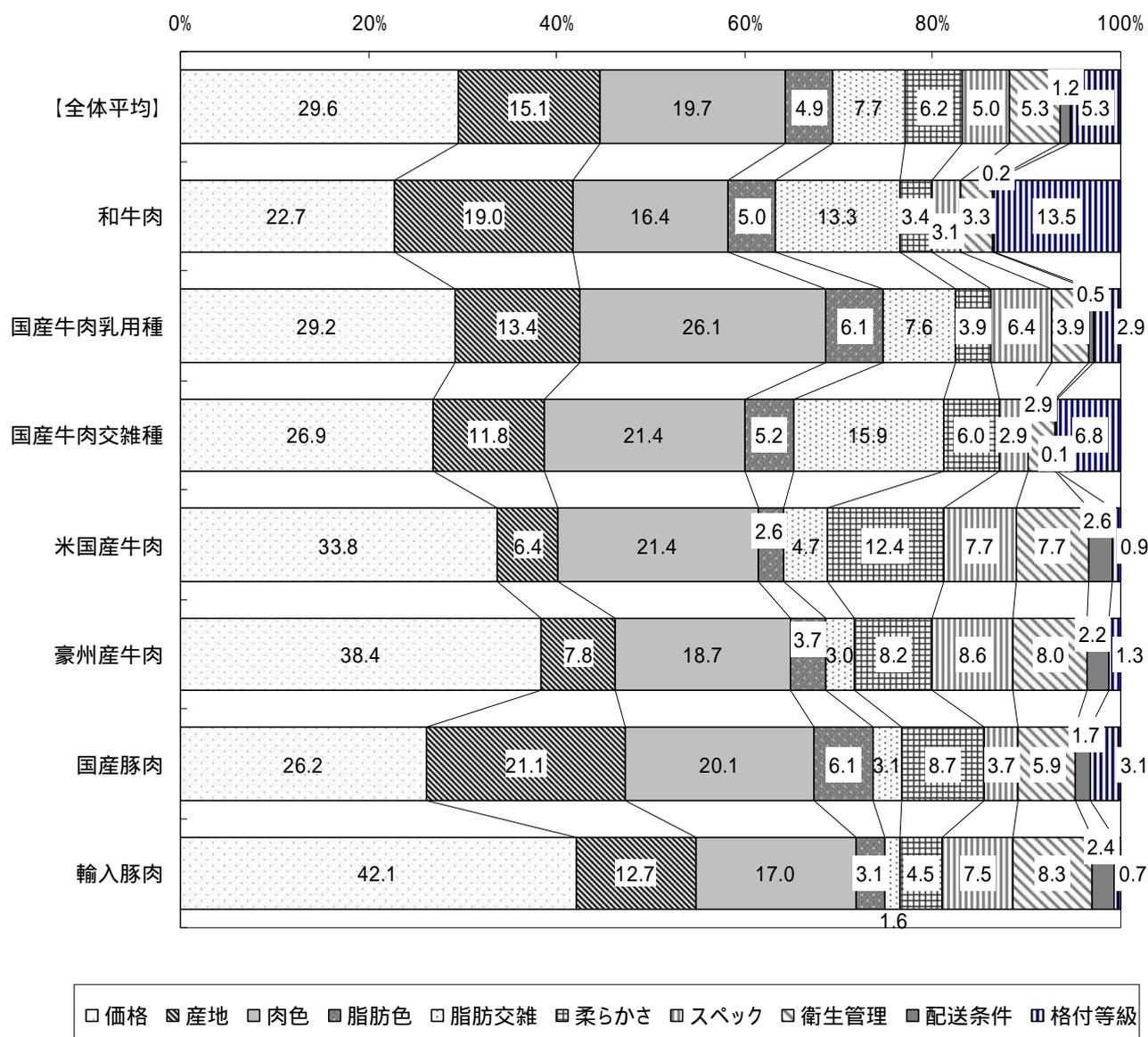
「米国産牛肉」は「価格」が 33.8%、「肉色」が 21.4%、「柔らかさ」が 12.4%

「豪州産牛肉」は「価格」が 38.4%、「肉色」が 18.7%

「国産豚肉」は「価格」が 26.2%、「産地」が 21.1%、「肉色」が 20.1%

「輸入豚肉」は「価格」が 42.1%、「肉色」が 17.0%、「産地」が 12.7%

図 3-20 品種別食肉仕入の重視項目



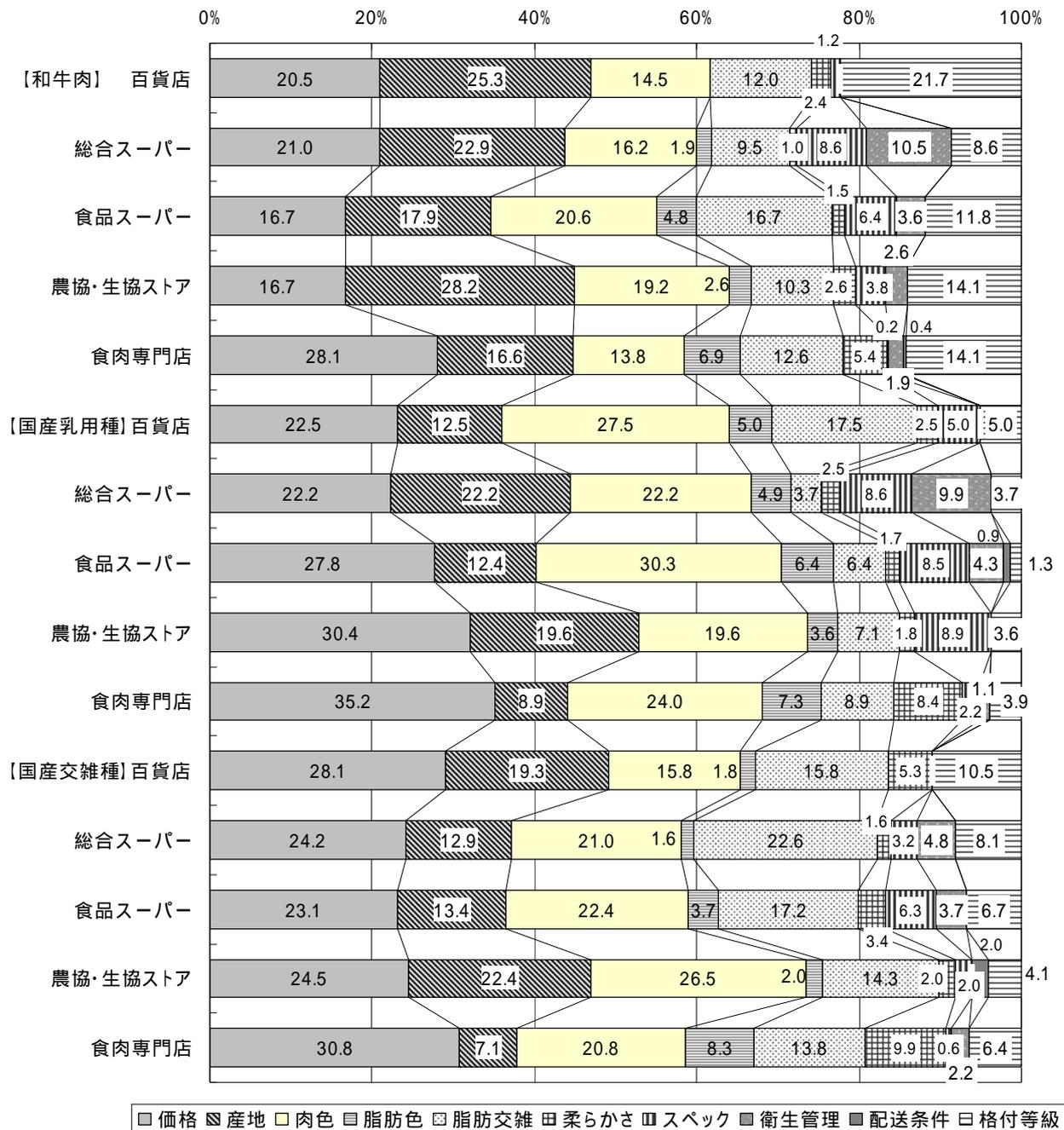
(2) 業態別の食肉仕入の重視項目

国産牛肉

「食品スーパー」は「価格」「肉色」「産地」重視、「総合スーパー」は「価格」「産地」「肉色」重視。

「百貨店」は「和牛肉」に対して「産地」「格付等級」を重視、「国産交雑種」は「価格」「産地」を重視する。「総合スーパー」「食品スーパー」は「和牛肉」には「産地」「肉色」「価格」「脂肪交雑」を重視、「国産交雑種」には「価格」「肉色」「脂肪交雑」を重視する。「農協・生協ストア」は「価格」「産地」「食肉専門店」は「価格」「肉色」を重視する。

図3-21 肉種別業態別食肉仕入の重視項目（国産牛肉）

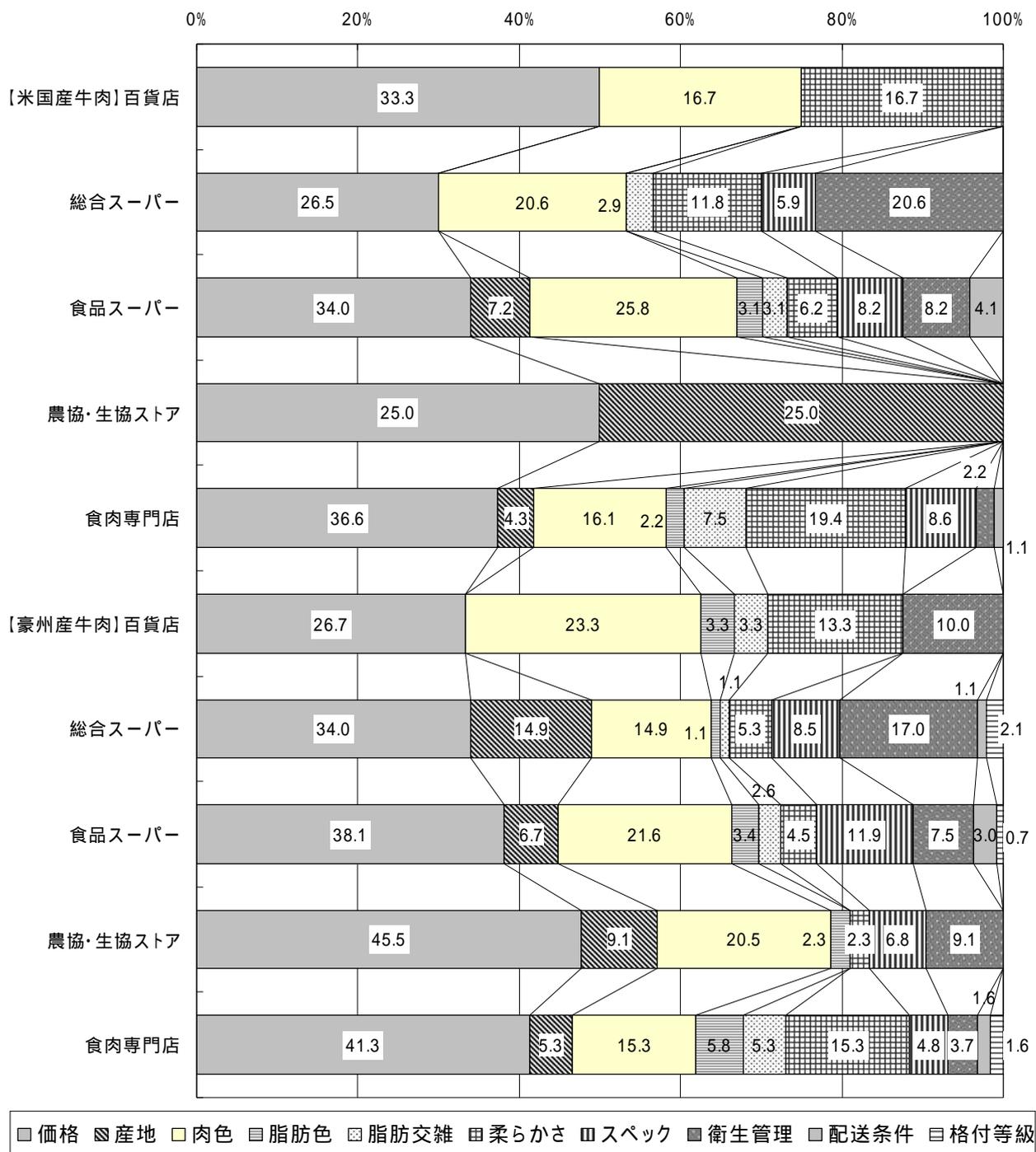


輸入牛肉

「輸入牛肉」は「価格」重視が強い。

「輸入牛肉」は各業態で「価格」が重視されている。「豪州産牛肉」ではこれとともに、「肉色」が重視されている。

図 3-22 肉種別業態別食肉仕入の重視項目（輸入牛肉）



豚肉

「国産豚肉」は「価格」「産地」「肉色」重視、「輸入豚肉」は「価格」重視。

「国産豚肉」は、「食品スーパー」「農協・生協ストア」「食肉専門店」では「価格」「産地」「肉色」が重視されている。これに対し、「百貨店」「総合スーパー」は同様な傾向であるが、「価格」重視のウエイトが高い。「輸入豚肉」はどこも「価格」重視であるが、「総合スーパー」と「食肉専門店」でこの傾向が強い。

図 3- 23 肉種別業態別食肉仕入の重視項目（豚肉）

